

2001年9月の情報です。

平成12年度水質汚濁の状況について

II 公共用水域水質測定結果の概要

測定結果の総括

- 健康項目のうち砒素が、火山地帯の自然的要因に由来して1河川1地点で環境基準を超過している。また、ほう素については8河川8地点で環境基準を超過している。
ほう素は自然状態において海域に相当程度含まれており、超過した8地点は河口域にあることから、海水の影響を受けたものと考えられる。
- 生活環境項目の代表的指標であるBOD又はCODの環境基準達成水域は、49水域(河川32水域、湖沼4水域、海域13水域)中41水域(84%)であり、前年度より2水域増加している。河川、湖沼、海域別の達成状況は、河川で2水域増加、湖沼、海域は前年度と同様であった。これを長期的にみると、河川については、下水道の整備や法・条例による工場・事業場の規制、指導などによる効果がみられて改善傾向にある。
また、湖沼、海域については、昭和60年代からほぼ横ばいの傾向にある。
- 東京湾における全窒素、全燐の環境基準の達成水域は、4水域中1水域で達成している。

1 項目別測定結果

(1) 健康項目

健康項目(26項目)については、砒素が早川の観光会館前の1地点で、ほう素が鶴見川の臨港鶴見川橋等8河川8地点で、それぞれの年間平均値が環境基準値を超過しており、環境基準を達成していない。その他の地点では、すべての項目が環境基準を達成している。(表1)

表1 健康項目の調査結果

水域区分	健康項目	測定地点数	環境基準達成地点数	達成率(%)
河川・湖沼・海域	1 カドミウム	139	139	100
	2 全シアン	139	139	100
	3 鉛	139	139	100
	4 六価クロム	139	139	100
	5 砒素	139	138	99.3
	6 総水銀	139	139	100
	7 アルキル水銀	73	73	100
	8 PCB	73	73	100
	9 ジクロロメタン	133	133	100
	10 四塩化炭素	139	139	100
	11 1, 2-ジクロロエタン	133	133	100
	12 1, 1-ジクロロエチレン	133	133	100
	13 シス-1, 2-ジクロロエチレン	133	133	100
	14 1, 1, 1-トリクロロエタン	139	139	100
	15 1, 1, 2-トリクロロエタン	133	133	100
	16 トリクロロエチレン	139	139	100
	17 テトラクロロエチレン	139	139	100

18 1,3-ジクロロプロペン	133	133	100
19 チウラム	133	133	100
20 シマジン	133	133	100
21 チオベンカルブ	133	133	100
22 ベンゼン	133	133	100
23 セレン	133	133	100
24 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	144	144	100
25 ふっ素	87	87	100
26 ほう素	97	89	91.8

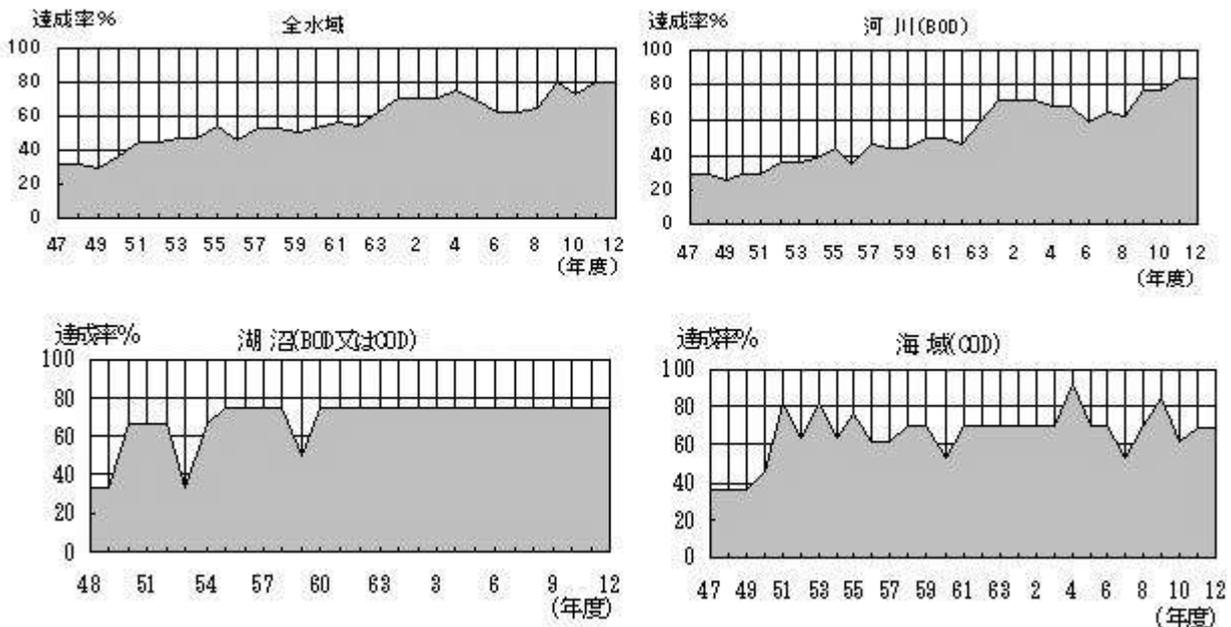
(2) 生活環境項目

ア BOD又はCODの環境基準達成状況

BOD又はCODの環境基準達成水域は、49水域(河川32水域、湖沼4水域、海域13水域)中41水域(84%)であり、前年度より2水域増加している。これを河川、湖沼、海域別にみると、河川が29水域(91%)、湖沼が3水域(75%)、海域が9水域(69%)となっており、河川は2水域増加し、湖沼、海域は前年度と同様であった。

これを長期的にみると、河川については、下水道の整備や法・条例による工場・事業場の規制、指導などによる効果がみられて、改善傾向にある。湖沼及び海域については、昭和60年代からほぼ横ばいの傾向にある。(図1)

図1 BOD又はCODの環境基準達成率



イ 東京湾における全窒素及び全燐の環境基準達成状況

平成7年2月に水域類型が指定された東京湾6水域のうち神奈川県分の4水域について、東京都及び千葉県の測定地点のデータを含めて達成状況をみると、東京湾(ハ)で全窒素、全燐が環境基準を達成しているが、東京湾(口)、東京湾(二)及び東京湾(ホ)は達成していない。(表2)

表2 東京湾における全窒素及び全燐の環境基準達成状況

水域名	類型	12年度 環境基準			
		全窒素	全燐	全窒素	全燐
東京湾(口)	IV	×	×	1	0.09
		1.3	0.093	以下	以下
東京湾(ハ)	IV				

		○ 0.73	○ 0.059	1 以下	0.09 以下
東京湾(二)	Ⅲ	× 0.85	× 0.065	0.6 以下	0.05 以下
東京湾(ホ)	Ⅱ	× 0.44	× 0.035	0.3 以下	0.03 以下

注 ○:環境基準達成 ×:環境基準未達成
記号の下の数値は、全環境基準点の上層における年間平均値(mg/L)である。